

そんな時代もあったねと、やっと話せる日が来たね



ゴールデンウィーク(連休)は、どのように過ごしましたか？今から3年前の頃は、新型コロナウイルス感染症対策のために緊急事態宣言が出され、学校は休校、テーマパークも休業、お店も営業時間を制限されていましたが、今年はマスク着用などの制限も無くなり、行きたい場所に行ったり、やりたいことをやったりすることができたのではないのでしょうか。

3年前の2月27日の夕方に、突然学校が休校になると発表され、卒業式や入学式も思うようにできず、体育祭も文化祭も修学旅行も遠足も中止になりました。自分たちの力ではどうにもできないことばかりの3年前の休校中に、上尾橋高校の先生たちが、音楽の教科書に載っている歌を歌って、生徒たちに動画配信したことがありました。そのひとつが、中島 みゆきさんの「時代」という歌でした。

そんな時代もあったねと いつか話せる日が来るわ

あんな時代もあったねと きっと笑って話せるわ。

(時代【作詞】中島 みゆき 【作曲】中島 みゆき)



当時わたしはこの歌を引用して、ほげんだよりで、こんなメッセージを上尾橋高校の生徒たちに送っていました。

「新型コロナウイルス感染症の影響で、就職や進学をめざしている3年生、部活をがんばりたい1・2年生は、イライラしたり、がっかりしたり、落ちこんだりすることもあるかもしれません。そんなときは中島みゆきさんの作った「時代」の続きをうたいましょう。



「たとえ今夜は倒れても たとえ今日は果てしもなく 冷たい雨が降っていても いつか故郷に出会う日を きっと信じて。だから今日はくよくよしないで 今日の風に吹かれましょう。(わかりやすいように歌詞の順番を変えています)」



わたしたちが今回の休校を、「そんな時代もあったねと、いつか話せる日が来るため」に大切なのはこれからあなたがどうするか…なのです。この先の未来で、「今自分がこんなに大変なのは、あの休校のせいだ、あのコロナのせいだ！」と、思い出すたびにむかついたり、落ちこんだりするのか、「コロナのときにはいろいろ大変だったねえ。」とふつうに話せるようになるのかは、これからのあなたがどうするかにかかっているのです。(R2.7月号 上尾橋高校ほげんだより)

あれから約3年、マスクの着用も黙食も必要なくなり、新型コロナウイルス感染症もインフルエンザと同じように、陽性だったら出席停止で決められた期間休めがよい感染症になりました。観光地には人があふれ、アクリル板をはさむことなく会話ができ、授業も学校行事も、換気などに気をつけながら、今までどおりにできるようになりました。



「学校が急に休校になったんだよね」「卒業式も入学式もちゃんとできなかつたんだよね」「遠足も修学旅行も行けなかつたんだよね」「ご飯はみんな前を向いて無言で食べていたんだよね」「部活も大会も中止になったんだよね」

思い出すと悔しい思いや悲しい思い、残念な思いがあふれてくる人もいるかもしれませんが、やっと、自分で考えて、自分で選んで、自分で行動する自由が戻ってきました。あなたはこれからの上尾橋高校での生活を、どのように過ごしていきますか？

何をしたいかわからない人は、今やるべきこと。毎日遅刻をしないで学校に来ること、学校を休まないように体調を整えること、授業を休まずに受けること、課題を出すこと、勉強をすること、本を読むこと、行事を楽しむことなどを、ひとつひとつやっていきましょう。また、部活をやりたいくてもやれなかつた時期が長かつたと思うので、上尾橋高校で部活をがんばってみませんか。「今」を大切に生きること、「未来」を思い描くことで、過去のつらかつた思い出を「そんな時代もあったね」と話せるようになるからです。



またもう一つみんなに覚えておいてほしいことがあります。それは、どんなに苦しいことでも、どんなに大変なことでも、どんなにこの先どうなるかわからず不安なことでも、必ず終わりは来て、日常が戻ってくるということです。

新型コロナウイルス感染症は、世界中を巻き込み、多くの人命を奪った病気でした。また、どのような病気なのか、どのように感染するのかもわからなかつたので、学校が休みになったり、海外では外出が禁止されたりして、病気の不安や恐怖だけではなく、人に会えない、外に出かけられないなど、今まで経験したことのない出来事が多く起きました。テレビでは毎日不安をあおるようなニュースばかりで、多くの人たちの気もちが暗くなっていく中、わたしが不安に押しつぶされたり振り回されたりすることがなかつたのは、2009年の新型インフルエンザの大流行と、2011年の東日本大震災による計画停電や物資の不足の経験があつたからでした。



2009年の新型インフルエンザは子どもを中心に感染したので、保健室は高熱の生徒であふれかえり、あつというまに学級閉鎖、学年閉鎖、修学旅行の延期が起こりました。また、東日本大震災の時には、直接的な地震の被害はありませんでしたが、電力不足により計画停電が行われ、停電で町が真っ暗になっていたり、信号が止まっていたり、ガソリン不足のために、何時間もガソリンスタンドに並んだりする体験をしました。新型インフルエンザの大流行の時も東日本大震災後の混乱の時も、いつまでこの状況が続くのかかわからず不安に思っていました、どちらもいつのまにか日常が戻っていました。

この経験があつたので、新型コロナウイルス感染症によっていろいろな不安や不自由さはあつたものの、これはいつまでも続かないし、やがて日常が戻ってくるのがわかつたので、不安を感じることなく過ごすことができたのです。

新型インフルエンザの大流行も、東日本大震災も、今回の新型コロナウイルス感染症も、自分の力ではどうにもできないことばかりでしたが、どんなに不安でも、どんなにつらくても、どんなにがっかりすることばかりでも、永遠に続くわけではなく、終わる日が来ることを、みんなは経験しました。

今回のような感染症や災害にあつたことは、二度と無いかもしれませんが(無いことを願います)。でも学校生活で、または家族の中で、これから社会に出たときに、つらいこと、苦しいこと、こわいこと、自分の力ではどうにもならない問題に出会うことは決して珍しいことではありません。そのようなとき、もうだめだとすべてをあきらめなくなったり、つい「死にたい」という思いで心がいっぱいになってしまつたりすることがあるかもしれませんが、どんな苦しみも、先の見えない不安も永遠に続くわけではありません。1人で考えていると解決方法がないときは、友だちや



先生、または上尾橋高校に来ているスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの先生に相談することでなにか良い解決方法が見つかるかもしれません。大切なのは「どうせもう無理!」「どうせ解決するわけない!」とあきらめて投げやりになつたり、不安に振り回されたりすることです。

もしかすると、今まさに死にたいくらい苦しいと思っている人がいるかもしれません。でも、上尾橋高校を卒業する時、または何年もたつてから、「あの時は苦しかつた」「あの時はつらかつた」「あのときあきらめなくてよかつた」そんな風にいつか話せる日が来るために、ぜひ困つた時、つらい時、どうしていいかわからない時には、誰かに相談しましょう。相談してもすぐに問題が解決しないかもしれませんが、わかってくれる人がいる、困つた時に助けてくれる人がいると思えるだけでも、人は強くなれるからです。この上尾橋高校には、あなたの話を聞いてくれる大人がたくさんいます。もし、誰に話していいのかわからないときは、保健室に来てください。



どうしたらいいか、一緒に考えていきましょう。